

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530454

研究課題名(和文)

東アジアにおけるトランスナショナルなメディアと文化に対する社会学的研究

研究課題名(英文)

A Sociological Study of Transnational Media and Culture in East Asia

研究代表者 毛利 嘉孝 (MORI YOSHITAKA)

東京芸術大学・音楽学部・准教授

研究者番号：70304821

研究成果の概要(和文)：

- (1) 日本文化の流行と韓流を経て、この20年の間にアジアの文化の「地域化(regionalization)」が確実に進行している。
- (2) 各国間の文化交流・文化変容は、初期の熱狂的な時期を過ぎて、一定のおさまりを見せている。
- (3) 中国の新中流階層の出現を受けて、中国(特に香港・台湾)や韓国では、中国市場に対する積極的な方策を取り、急速に文化産業の保護・育成に取り組んでいる。
- (4) デジタル化、インターネットの発達により、産業構造が大きく変化する一方で、個人レベルの文化交流や文化変容、市場経済に属さない大衆文化の交流が活発化している。

研究成果の概要(英文)：

- (1) The 'regionalization' has certainly developed in and by popular culture in Asia over the last 20 years through the expansion of Japanese popular culture and Korean Wave,
- (2) The first enthusiasm has been almost over in cultural exchange and transformation.
- (3) Since the emergence of the new middle class in China, Chinese cultural industry, especially in Hong Kong and Taiwan and Korean one are now keen to start the policy for protecting and developing the domestic culture and media industry.
- (4) The structure of media and culture industry has been dramatically changing due to the rapid development of digital technology and the Internet, while cultural exchange and transformation has been increasingly active among voluntary individuals.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：メディア・文化・東アジア

グローバル化

1. 研究開始当初の背景

情報テクノロジーや交通・流通の急速な発展がもたらしたグローバリゼーションによって、東アジアのポピュラー文化の風景も急速に変化している。アニメやゲームなどの日本文化の流行。韓流ブームや韓国映画の高い評価。中国で急速に発展している情報メディア産業。いまでは東アジアの日常生活の中にトランスナショナルな（国境を越えた）文化が入り込んでいる。

しかし、こうした現状を既存の人文科学や社会科学が十分に分析してきたとはいえない。本研究は社会学、特にメディア研究と文化研究を基盤としながら、現在進行中の文化の変化を捉えようというものであった。

特に本研究では、国境によって分析対象と既存の研究が分断されていることを批判的に捉え直し、むしろトランスナショナルな観点から、日本、韓国、中国（含む香港、台湾）のポピュラー文化の生産、消費、流通の過程をみようとしたところにその特徴がある。

2. 研究の目的

(1)東アジアのメディア（特にテレビ（含むインターネット放送）と音楽）を取り巻く社会的条件を把握する。特に、生産・流通・消費の関係がどのように変化しつつあるのかを明らかにする。

(2)各国間のメディア受容の相違点や共通点を抽出し、このことがどのような社会意識を生み出しているかを調査する。

(3)メディアの状況の変化が、どのように政治や経済と関係を結びつつあるのかマクロな分析を行う。

(4)このグローバルな新自由主義的傾向の中でグラスルーツ的で越境的な対話は可能か、そして、そうした対話がグローバル化や多文化政治の課題とどのように交錯できるのかを考察する。

3. 研究の方法

(1)文化産業の関係者、行政関係者、オーディエンスに対する聞き取り調査とフィールドワーク。

(2)関連文献の収集と分析。

(3)韓国・中国の関係領域の研究者と研究会、シンポジウムを通じた意見交換。

4. 研究成果

(1)日本文化が東アジアを席卷した1990年代、韓流が広がった2000年代を経て、この20年の間にアジアの文化の／文化を通じた「地域化 (regionalization)」が進行していることが確認できた。この地域化は、アメリカやヨー

ロッパを中心とした「グローバル化」とは異なる独自の展開を見せている。

この地域化に伴って相対的に日本の文化の影響力はゆっくりとではあるが弱まりつつある。

(2)各国間の文化交流・文化変容は、初期の熱狂的な時期を過ぎて、一定のおさまりを見せている。とりわけ、文化産業の中で各国にノウハウの受容や定着が見られる。

特に韓国では、日本のテレビ制作やポピュラー音楽産業のマーケティングが応用され、ポピュラー音楽（特にアイドル）を中心に第二期韓流ブームとも呼ぶべき状況が生まれている。

(3)中国市場の拡大と新中流階層の出現を受けて、中国（特に香港・台湾）や韓国では、中国市場に対する積極的な方策が取られている。また中国政府は急速に文化産業の保護・育成に取り組んでいる。

アニメ産業においては、日本やアメリカの下請けを脱し、独自の制作体制を形成しようという動きが見られる。特に3DCGの動向は顕著である。

(4)デジタル化、インターネットの発達により、産業構造が大きく変化する一方で、個人レベルの文化交流や文化変容、市場経済に属さない大衆文化の交流が活発化している。

また既存のテレビや新聞の影響は相対的に弱まりつつあり、インターネットの影響力が著しく高まりつつある。

その一方で国家によるマスメディアの一定の制約は依然として韓国、中国で続いている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

(1) MORI, Y. (2011) The Pitfall Facing the Cool Japan Project: The Transnational Development of the Anime Industry under the Condition of Post-Fordism, *International Journal of Japanese Society*, Blackwell: Oxford, in printing 査読有

(2) MORI, Y. (2010) 'New Art and Culture in the Age of *Freeter* in Japan: On Young Part Time Workers and the Ideology of Creativity', *Kontur: Visualizing Asian Modernity*, Aarhus University, Denmark, pp.48-53 査読有

(3) MÖRI, Y. (2009) 'J-pop: from the Ideology of Creativity to DiY Music Culture, *Inter-Asia Cultural Studies*, Routledge: London Vol.10 No.4, pp.474-488 査読有

(4) 毛利嘉孝 「アニメ産業にみる国際分業グローバリゼーション：日本と中国を中心に」、『放送メディア研究』、NHK放送文化研究所第6号 69-91頁 2008年 査読無

(5) 岩渕功一 「グローバル化とメディア文化再考」、『放送メディア研究』、NHK放送文化研究所第6号、7-32頁 2008年 査読無

[学会発表] (計 8 件)

(1) MÖRI, Y. 'Nationalism, Cosmopolitanism and Class Consciousness in Japanese Hip Hop in the 2010s', *Asian Popular Music Conference: In the Mix* 2011年 3月 26日 Princeton University, US

(2) MÖRI, Y. 'Considering 'Koreaness' in Relation to North Korea in Japan: A comparative reading of documentary films; Dear Pyongyang and Repatriation', *Korean Cine-Media and the Transnational Conference* 2010年 11月 13日 New York University, US

(3) MÖRI, Y. The Strategy of Self-Orientalization in the Early Development of Rock/ Pop Music in Japan: From Flower Travelling Band to Yellow Magic Orchestra
LOCK'N'LOLL IS HERE TO STAY: Stereotyping, Domesticating and Inventing Popular Musics in/of Asia 2010年 8月 6日 Heidelberg University, Germany

(4) MÖRI, Y. Other Stories and Postcolonial Nostalgia in Japanese Popular Music: Agnes Chan, Teresa Teng and Yong Pil Cho, *Association for Cultural Studies* 2010年 7月 20日 香港 嶺南大学

(5) MÖRI, Y. 'Question of *Hinkaku*: Japanese Tradition and the Quality of 'Dignity and Calm' in Sumo Wrestling in the Age of Globalization', *International Workshop on Modern Sports in Asia: Cultural Perspectives* 2010年 4月 29日～30日 National University of Singapore, Singapore

(6) MÖRI, Y. 'Nationalism, Localism and Cosmopolitanism in Japanese Hip Hop Culture in the 2000s', *Nationalism in Japan*, National Institute of Japanese Studies, UK and Sheffield University, 2010年 2月 26日 Sheffield University, UK

(7) MÖRI, Y. New Art and Culture in the Age of Freeter in Japan: On Young Part Time Workers and the Ideology of Creativity', *Visualizing Asian Modernity: Contemporary Art and Social Change* 2009年 5月 16日 Arhus University, Denmark

(8) 毛利嘉孝 「グローバリゼーションの時代のD i Y的政治=文化運動」、日本平和学会、2009年 6月 14日、恵泉女学園大学

[図書] (計 5 件)

(1) 毛利嘉孝他、日本放送協会出版 (NHK 出版) 『早稲田大学寄付講座講義録：テレビの未来を拓く君たちへ』伊藤守編著 第五章考察「グローバル化のテレビ」、2111年 全 528頁内 pp. 434-439 査読無

(2) 毛利嘉孝他、日本放送協会出版 (NHK 出版) 『日本的想像力の未来：クール・ジャパノロジーの可能性』東浩紀編著、第十章「トランスナショナルな「理論」の構築に向けて：日本研究と文化研究」、2010年、全 281頁内 pp. 221-226。査読無

(3) 岩渕功一他、青弓社、『多文化社会の<文化>を問う』、岩渕功一編著、2010年、全 240頁。」査読無

(4) MÖRI, Y. (2009), Hong Kong University Press, 'Reconsidering Hybridity: Transnational Exchanges of Popular Music in-between Korea and Japan' in *What a Difference a Region Makes: Cultural Studies and Cultural Industries in Northeast Asia*, C. Berry, J. Mackintosh and N. Liscutin (eds.) pp. 213-230 *全 323頁の内 18頁 査読有

(5) Iwabuchi, K (2009), Hong Kong University Press, 'Reconsidering East Asian Connectivity and the Usefulness of Media and Cultural Studies' in *What a Difference a Region Makes: Cultural Studies and Cultural Industries in Northeast Asia*, C. Berry, J. Mackintosh

and N. Liscutin (eds.) pp.24-36. 全 323 頁の
内 13 頁 査読有

6. 研究組織

(1) 研究代表者

毛利 嘉孝 (MŌRI YOSHITAKA)

東京芸術大学・音楽学部・准教授

研究者番号：70304821

(1) 研究分担者

岩渕 功一 (IWABUCHI KOICHI)

早稲田大学・国際教養学院・教授

研究者番号：10327728

(3) 連携研究者

()

研究者番号：